

令和7年度第1回さぬき市総合教育会議議事録

1 開催日時	令和7年6月30日(月) 開会 14時00分 閉会 15時50分		
2 場所	寒川第2庁舎203会議室		
3 出席者	市長		大山 茂樹
	教育委員会	教育長	和田 浩二
		委員	檜原 秀樹
			得丸 慶子
			多田 俊
			西尾 由香
	事務局	教育部長	佐藤 美由紀
		教育総務課長	細川 史朗
		学校教育課長	檜村 貴紀
		生涯学習課長	大生 直樹
幼保こども園課長		真部 哲男	
人権推進課長		山田 謙二	
教育総務課課長補佐		多田 端子(会議録調製者)	
その他説明等のため出席した者		少年育成センター所長 六車 弥千代	
4 会議に付した協議・調整事項	<p>(1) 市内小中学校における不登校の現状と課題について</p> <p>(2) 英語教育について</p> <p>(3) その他</p>		
5 特記事項	傍聴人 1名、ケーブルテレビ取材関係者 1名		
6 会議内容	<p>開会</p> <p>教育総務課長 ただ今から、令和7年度第1回さぬき市総合教育会議を開会します。この会議は原則公開とされております。傍聴者については、1名となっておりますので御報告いたします。また、さぬき市ケーブルネットワークの関係者に当該会議の取材を依頼していますことを、御報告いたします。</p> <p>なお、議事録を会議後に公表することを申し添えいたします。それでは、開会にあたりまして、市長から御挨拶を申し上げます。</p> <p>市長 (挨拶)</p> <p>教育総務課長 続きまして、教育長から御挨拶を申し上げます。</p> <p>教育長 (挨拶)</p> <p>協議・調整事項</p>		

教育総務課長	<p>それでは、協議・調整事項に入ります。</p> <p>ここからの議事進行については、さぬき市総合教育会議運営規程に基づきまして、市長をお願いします。</p>
市長	<p>それでは、議事に入ります。</p> <p>(1) 市内小中学校における不登校の現状と課題について、資料に基づき、事務局から説明をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>(「資料1 さぬき市立小中学校の不登校児童生徒に係るデータ」について説明した。)</p>
少年育成センター所長	<p>(「資料2 さぬき市教育支援センター「FINE」(以下、「ファイン」とする。)の状況と支援体制」について説明した。)</p>
市長	<p>それでは、説明や資料について聞きたいこと、教育委員としての見解や感想をお願いします。</p>
教育委員	<p>不登校については、前年度に教育委員会の研修に参加し、その際に他の自治体の教育委員と情報交換をさせていただきました。長期欠席者つまり不登校の児童生徒については、全国的にも年々増加しており、多くの自治体で苦慮しています。</p> <p>不登校の子どもの受け皿として、支援センターを設置し、運営しているという本市の状況は、素晴らしいと思っています。行政が設置しているので、学校と連携ができています。それでも、不登校の人数が減らないのは、様々な要因があると聞いています。</p> <p>今後は、支援センター「ファイン」にも、来ることができない不登校の子どもにどう関わるかが課題であると思います。</p>
教育委員	<p>不登校の場合、「子どもが学校に行きたがらないのか。」「家庭の状況で来たくても来れないのか。」「ファインに来れない子どもがどうしているのか。」そこが気になります。</p>
少年育成センター所長	<p>ファインに来れない子はどうしたらいいのか。それは、私たちにとっても大きな課題です。不登校の子どもとファインをつないでくれるのが、スクールソーシャルワーカーです。ワーカーのすすめで、親子でファインの見学に来て、通級を始めるお子さんもいます。</p> <p>スクールソーシャルワーカーの存在が大きいと考えています。</p>
市長	<p>ファインに来ていない子どもは、日中どのような時間を過ごしているのでしょうか。学校や教育委員会は、その実態をつかんでいますか。</p>
教育長	<p>不登校の子どもについては、学校が状況を把握し、教育委員会にも報告をお願いしています。保護者と子どもの関係性などの細かい部分については、教育委員会ですべて把握しているとは言えませんが、学校は確認しています。</p> <p>また、実態として、子どもの減少に伴い、先生の絶対数が減っているので、不登校への対応も難しくなってきているのが現状です。</p>
市長	<p>ファインに来ていない子どもの状況が気になります。フリースクールと呼ばれるところに行っているのか、それとも家でいるのか。学校はそ</p>

	<p>ういった子どもの状況を十分に把握し、連絡をとっていますか。ファインに来ている子どもよりも情報が少ないのではないですか。</p> <p>また、さぬき市の不登校の子ども数について、令和6年度は、令和5年度と比較して、減少していますが、その要因と今後の傾向について、分析していますか。</p>
教育長	<p>今年度は、フリースクールに通っている子どもはいないと聞いています。また、ファインに来ていない子どもの状況についても、学校は把握しています。</p> <p>令和6年度の不登校については、全国的に減少傾向にあります。不登校の問題が大きくなり、国や県は、令和5年度に不登校対策を強化しました。その効果が出ているのかもしれませんが。</p>
市長	<p>国が対策をしたから、不登校が減少したという分析ですが、一概にそれが要因とは、考えにくいような気がします。</p> <p>一人ひとりの子どもに対して、まずは学校が向き合う、それでも難しい場合は、市の教育委員会が対応し、それでも難しい場合は、国や県が不登校対策を徹底する、というような段階的な流れが望ましいと考えます。</p> <p>不登校の原因や不登校になる時期というようなものは、はっきりしているのでしょうか。</p> <p>小学校中学年ぐらいから不登校になる子どもであれば、自我が芽生え、自分が思っていることと違っていると感じるが多くなり、学校生活を送りづらくなる、といったような実態があるような気がします。</p> <p>中1ギャップという言葉を聞きますが、そういったことは実態としてどうでしょうか。中学校になって不登校が増えることは、データでも分かりますが、不登校の原因は、その子その子で様々であり、いろいろな原因が複合的に絡まり合っている場合もあるということですね。</p> <p>また、いじめが原因で不登校になっているといった実態はありますか。</p>
少年育成センター所長	<p>ファインに来ている子の中で、いじめが原因で学校に行けなくなったという子は、現在のところはいません。子どもたちといろいろと話をする中でもいじめの話が出てくることは、少ないと思います。</p>
教育委員	<p>さぬき市は、不登校児童生徒に対し、きめ細かい対応を行っていると思えます。</p> <p>ファインが受け皿として整備されていることで、不登校の子の行き場があり、中には学校へ復帰する子どももたくさんいることは、画期的だと思います。いったん不登校になると、学校へ復帰することはなかなか難しいと言われていました。一人ひとりに寄り添い、丁寧な対応をされているんだと思えました。不登校の原因は、様々であり、本人にも原因が分からないケースがあるようです。そういった状況の中、教育の機会を保障することを教育委員会として考える必要があると思えます。</p>

<p>教育委員</p>	<p>不登校の原因とその背景は、様々であり、つかみどころがないのが実態です。小学校1年生の時から登校できない子もいます。不登校については、学校が保護者に働きかけても、難しい状況が多々あります。</p> <p>ファインやスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが連携し、不登校の子どものサポート体制を充実していただきたいと思えます。</p> <p>また、ヤングケアラーのため、学校に来れないという家庭の子もいます。こういった家庭は、福祉の面から支援をしていくべきです。教育委員会と福祉事務所、専門家、学校で連携し、対応する必要があります。</p>
<p>教育委員</p>	<p>不登校児童生徒に対して、さぬき市が丁寧に対応していることを、誇りに思います。</p> <p>さぬき市立の小中学校における長期欠席者の人数ですが、不登校が理由の欠席は、令和5年度が突出して多くなっています。また、その他を理由とする欠席は、令和4年度が多くなっています。その理由は、何でしょうか。</p>
<p>教育部長</p>	<p>コロナが影響していると思われます。その他が理由の欠席は、主にコロナによる登校自粛と考えられます。令和4年度に登校を控えていた子どもの中に翌年は不登校となった子もいるのではないかと思います。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>資料に記載している欠席の理由の一つである、「その他」は登校の自粛です。</p>
<p>教育委員</p>	<p>小学校に入学する前から、不登校になりにくくする環境をつくるのが大事だと思います。</p> <p>今の小学生は、1日に3時間から4時間ぐらいスマートフォンを見ています。昔は、その時間と同じくらい、友達と遊んでいました。昔に比べて、今の子ども達は、人との関わりが少なくなっています。</p> <p>不登校にならないための手立てを考える必要があると思えます。</p>
<p>市長</p>	<p>ファインが機能していることは、理解できます。子ども達の不登校の原因は、精神的なものなのか、医学的な治療が必要で不登校になっているのか、そのあたりを分析する必要もあると考えます。</p> <p>不登校について、学校現場はどのように考え、対応していますか。</p>
<p>教育長</p>	<p>学校もどうやったら不登校を減らすことができるか、常に考えています。学校訪問でも、不登校について、議論をしています。</p> <p>教育委員会としては、子どもが学校に行きたいと思える学校運営ができるよう、学校現場と力を合わせて取り組んでいます。</p>
<p>市長</p>	<p>この会議の参加者の中に、不登校で学校へ行っていないなかったという人は恐らくいないと思えます。不登校とは縁がなかった人たちが意見交換をしても、なかなか難しい面があります。</p> <p>学校の授業や勉強が面白くなくても、学校へ行けば、友人と遊ぶことができる、といった他の楽しい要素があり、そのような要素がカバーしているため、学校へ行っている子も多いと思えます。</p>

	<p>また、もし、高校や大学に入るために、小中学校があると考えている人がいるならば、小中学校の存在意義をもう一度考え直していただきたいと思います。</p>
教育委員	<p>不登校の状態も様々で、本人は、朝起きて学校に行きたいけれど、起きられない、そういった子もいるようです。このような場合は、自律神経を安定させる治療をしなくてははいけませんので、不登校ではなく、病気による欠席だと思えます。</p>
市長	<p>様々な要因で学校へ行けない子どもたち、そういった子に対して、どういったサービスを提供していくべきか、考える必要があります。</p>
教育委員	<p>学校の教育活動は、学習指導要領で定められています。教科の時間数も決まっており、そのやり方にあわない子どもたちも一定程度います。なぜ、ファインがいいのかと子どもの側から考えたとき、ファインでは、自分の学びたいことを選んで、自分のペースで過ごせるからだと思えます。子どもも保護者も安心して学ぶことができる場が教育支援センターです。学校と連携し、教育支援センターとしてのサービスを充実してほしいと思えます。</p>
市長	<p>不登校の子ども達全員がファインに通っているという状況ではありません。ファインに来れない子もいます。ファインに頼るのではなく、学校で何とかすることはできないのでしょうか。</p>
教育委員	<p>不登校の子ども達が学校へ行けなくなった理由は、様々です。そのため、学校で対応することは非常に難しく、限界があるのかもしれない。</p>
教育長	<p>自分の教室へ入ることは、難しいけれど、他の部屋なら入ることができるという子もいます。そういった子に対して、校内サポートルーム事業を実施しています。教室ではない別室に先生を1名配置し、その先生が関わります。志度小学校で実施していますが、効果が出ています。ファインへ行く前の対応と考えていますので、可能であれば、他の学校でも実施したいと思っています。</p>
教育委員	<p>不登校対策の最終目的は、いったい何なのか。学校に復帰させることなのか、それとも社会生活に適應できる子に育てることなのか。何が最終目的なのか、それによって考え方や対応も違ってくると思えます。</p>
市長	<p>学校は、子どもが成長していく過程における一つの手段であり、国が作った仕組みです。その仕組みと上手く合わないことが駄目だという考え方は間違っています。学校に来ない子どもは、怠けていると考える大人も一定程度いますが、そのような考えにならないようにしたいと思います。既存の教育制度に馴染まないから駄目だというのは、違います。</p> <p>学校において、勉強が得意な子がいれば、苦手な子がいるのも当たり前のことです。子ども一人ひとりに向き合って、対応していただきたいと思えます。</p>
教育長	<p>子どもそれぞれに思いがあるので、それを大事にしていきたいと思</p>

	ます。不登校の場合、福祉的なサポートが必要な子どもも一定程度いますので、今後も福祉部局と連携し、対応していきたいと考えています。
市長	学校は、学習指導要領に基づき、社会に役立つ子どもを育てています。時代や考え方が変わると、社会に役立つ子どもの概念も変わっていくと思いますが、そのあたりは、どうなんでしょうか。
教育委員	学習指導要領は、10年に1回見直しをしています。ただ、学校の取組や学校自体をすぐに変えていくことは、難しいのが現状です。学校に馴染めない子どもが存在する事は、事実として受け止め、学校に馴染めない子どもは、教育支援センターなどが受け皿となる、といった仕組みが望ましいのではないかと思います。
教育委員	学習指導要領は、大枠の部分であって、細かいところは、学校や教員の裁量に任されているところもあります。不登校は子どもの特性である、といった捉え方をすれば、学校に来れない子がいても、「来れるときに来ればいい。」といった考え方ができるのではないかと思います。例えば、中学校であれば、合唱コンクールや修学旅行などの行事だけでも出席して、友達とのつながりを持つ、といったような子がいても良いのではないかと思います。高校も、定時制や通信制の高校があることで、以前に比べて、不登校の子どもも高校に通いやすくなっています。また、夜間学校などもあり、学び直しができる環境も多くあるので、そういった状況を広げていくことも行政の役割の一つかと思います。
市長	高校へ進学するにあたり、出席日数は何かに影響しますか。
教育委員	高校進学に当たり、出席日数が直接合否に影響することはありません。やはり、成績で合否が決まります。ただ、中学校で不登校であった子どもは、高校入学後も不登校となる傾向があると聞いています。
市長	ファインの子ども達も多くの子が進学をしているようですが、どのように進学先を決定していますか。
少年育成センター所長	進学先は、子どもが選択しています。ファインの子ども達は、学校にいるのが、丸一日となると難しい傾向にあります。半日なら通えるかもしれない、ここだったら頑張れるかもしれないといった学校を選択しています。
市長	子どもが進学先を考え、選択する時に、周囲の大人たちは、どのように助言していますか。
少年育成センター所長	ファインでは、東かがわ市のフレンドと合同で進路説明会を毎年行っています。今年も9月に行いますが、通信制も含めて、10校以上の学校の説明を聞くことができます。ファインの子どもたちは、自分の特性が分かっている子が多いです。学校で保護者を交えて、子どもの考えを大切にして、進路相談をしているので、ファインもそれをサポートしています。
教育委員	通信制の高校は、不登校ありきのところもあるので、先生方もそういった子のケアの仕方を十分に心得ています。不登校の子も通いやすい

	仕組みなので、通信制に行って良かったという子も多いかと思います。
市長	<p>「学校に行けない。」という理由だけで、その子が社会で生きていくことが難しくなるのは避けたいと思います。ただ、生きていく上で、自分自身が頑張らないといけない時がある、という思いだけは、持つておく必要があると思います。</p> <p>不登校で、学校に馴染めず、学校へ行けなくなった子どもでも、大人になって、色々なところで活躍している人はたくさんいます。不登校の子ども達にも夢や希望を与えていただきたいと思います。</p>
市長	<p>それでは、次の議題に移ります。</p> <p>(2) 英語教育について、資料に基づき、事務局から説明をお願いします。</p>
学校教育課長	(「資料3 さぬき市英語検定受験状況、資料4 本市の英語教育」について説明した。)
市長	今のさぬき市の中学生の英語の力は、どのくらいですか。
教育長	全国学力状況調査によりますと、今の中学校3年生は、全国平均ぐらいです。
学校教育課長	令和6年度の市内の中学校3年生のデータとして、英検3級相当の力がある生徒の人数の割合は、市全体で45.7%です。参考までに申し上げますと、国平均52.4%、県平均46.7%なので、若干低い結果が出ています。
市長	英語検定の補助事業を実施していますが、英検を受験すれば、英語力が上がるという説明ができれば、受験率も上がると思いますが、なかなかそのような説明ができません。また、このようにすれば、英語の力が上がるのでは、といったような御意見等がありましたら、お願いします。
教育委員	<p>資料によると市内3中学校のうち、長尾中学校の受験率が極端に低いのは、どういった理由があるのでしょうか。</p> <p>英検を受けたからといって必ずしも英語が上達するわけではない、と思います。ただ、高校に入るときに英検3級は取得しておいた方が良いでしょう。将来的に大学でTOEFLなどを受験すると思いますので、その準備段階として英検を受けた方が良いでしょうと思います。</p>
学校教育課長	長尾中学校の受験率が低いのは、教員の方針もあるかと思いますが、受験の日程が行事と重なっていることが影響していると思われます。
教育委員	英検の受験は、英語に興味や関心を持ってもらうきっかけにもなりますし、全国学力状況調査や高校入試にも役に立ちます。受験して不利になることはありません。
教育委員	英語検定を受けるというのは、英語を勉強する動機付けだと思います。英語の勉強が好きなら、英検を受験する必要はないかもしれません。これからの時代、英語に親しめる子どもを育てることが大事だと思います。

教育委員	英検の受験は任意なので、進んで受ける子どもは少ないと思います。受験率を上げようと思えば、英語検定に対して関心が高まるよう、何か手立てをしなくてはなりません。行事や部活が受験日と重なっているため、日程があわないケースもありますが、もう少し、補助制度も含めて英検について、アナウンスしていただく必要があると思います。
教育委員	中学校の英語の先生が子どもたちに英検の意義をしっかりと伝えると、英検の受験率は上がります。先生自身が英検の受験に対して、メリットを感じていないのではないかと思います。
市長	受験率だけを過大に気にする必要はないと考えています。ただ、受けようと思った時に、受けることができる環境を整えておくことが大切だと思います。 ALTについては、どうですか。
教育長	ALTは、2学期から5人になります。子ども達の英語に対する興味や関心が広がっていくことを期待しています。小学校の音楽の時間にALTも参加して英語の歌を歌う、算数の授業の中で英語を使った数の勉強をするなど、それぞれの学校で工夫し、特色を出して、活動ができています。今後も幅広く活動をしてほしいと思います。
市長	ALTの数を増やしたからといって、英語の力が向上するとは限りません。ALTが小学校で授業をして、英語が好きになる子どもが増えることを期待しています。 映画が好きな子が外国の映画を見続けていたら、いつの間にか英語も堪能になった、という話も聞いたことがあります。好きなことに結び付けることが大事です。 さぬき市の英語教育や子どもたちの英語力、英語検定の必要性等について、機会があれば、ALTの意見も聞いてみたいですね。
教育長	英語検定については、自分の実力を知るためにも受験していただきたいと思います。学校現場でも受験を推奨していただくよう、教育委員会からも働きかけをしたいと思います。
教育委員	学校だけではなく、市全体で英語力向上のための取組をしてほしいと思います。そういった機会がたくさんあると英語が好きになる子どもも増えます。
教育委員	長尾小学校では、小学校の時点ですでに英検3級を取得している子どもいます。英検には、4級や5級もあるので、小学校でも英検を受ける環境をつくってほしいです。
教育委員	さぬき市が行っている国際理解教育の事業は、とても素晴らしい取組だと思います。英語を学ぶことは、国際理解につながります。英語を学ぶことで、違う言葉や文化を持つ人と話をすることができます。こういった事業がさぬき市の特色になれば、素晴らしいと思います。
教育委員	サマーキャンプの宿泊イベントは、英語を使って生活できる取組ということで、これまでにない刺激のある事業だと思います。今年参加した

	<p>生徒が友達に話をする事で、うまく広がっていけば良いのではないかと思います。</p> <p>今年度は、ALTを2名増員し、小学校を拠点とするとのこと。子ども達がALTと触れ合える場を多く作ることが大事だと思います。形式ばらずに、国際理解教育を広げていってほしいと思います。</p>
教育委員	<p>英語を使って、自分自身が何を発信するかが大事です。英語を学ぶことをきっかけにして様々なことを学んでほしいと思います。</p>
教育長	<p>サマーキャンプは、今年初めての試みです。こういった取組を拡大していきたいと考えています。</p>
市長	<p>英語教育は、様々な方法があります。市が実施する様々な取組により、英語が好きになる子ども、英語に親しむ子どもが増えれば、素晴らしいと思います。</p> <p>目先の受験や就職のためだけではなく、生きていく過程において自分自身の自己実現の手段や視野が広がるような、そういった教育活動を前向きに検討し、子ども達を応援したいと考えています。</p> <p>不登校については、根深い問題です。ただ、一番大事なのは、子ども一人ひとりの気持ちです。その気持ちに寄り添うことができる社会を実現するよう取り組んでいきたいと考えています。明日、明後日は、実を結ぶことがなくても、将来的に何か実現できれば良いと思います。</p> <p>私は、以前からこの会議で、いじめや不登校で辛い思いをする子がいないさぬき市を目指したいと言っていますが、今もその気持ちは同じです。</p> <p>今日は、長時間にわたり議論していただき、たくさんの御意見を頂戴いたしました。ありがとうございました。</p>
閉 会	
教育総務課長	<p>以上をもちまして、令和7年度第1回さぬき市総合教育会議を閉会します。</p>